

わかりやすい予算書

— ことしのよさん —

飯 豊 町

2023

目次

01	災害復興元年
02-03	当初予算の概要
04-05	一般会計の歳入・歳出内訳
06-11	主要事業の概要
12-13	財政健全化指標



災 害 復 興 元 年

令和4年8月3日、複数の線状降水帯による記録的な短時間豪雨は、昭和42年羽越水害以来となる未曾有の被害を本町にもたらしました。

これまでの経験を遥かに超えた降雨は、山形地方気象台高峰観測所の雨量計で降り始めからの雨量が308ミリ、国土交通省樺観測所で476ミリ、おそらく時間当たり雨量は100ミリの水準まで達したと思われます。本町のように扇状地の地形で、住宅地でも標高250mから230mまでの落差がある地形を縦横に走る道路が、まるで渓谷の急流のような状態になり、流木が住宅地や水田に流れ込むという事態になりました。

複数の橋梁が崩落し、浸水した住宅、全壊した住宅は総計で200戸を超え、道路、河川、山肌や丘陵の崩落、水田への土砂流入など、その被害は甚大です。

このような状況下でありながら、これまでたくさんの方々からご支援をいただき、本日を迎えております。

奇しくも町制施行65周年を刻む年となる令和5年度を、災害の大きな爪痕から復旧・復興へと突き進み、一日でも早い完全復旧と復興に取り組むべき年、復興元年と位置付け災害復興に全力で取り組みます。

一日でも早く日常を取り戻すために

当初予算の概要



自治体の1年間の予算

予算とは、4月から翌年の3月までの1年間の収入と支出の見積もりです。新しい年度が始まる前に、その1年間でどのくらいの収入があるのか、1年間の行政サービスをどのように行うのかを計画し、そのために使うお金を見積もります。予算を見れば、1年間に飯豊町でどのような収入があり、何に使う予定なのかがわかります。

飯豊町の令和5年度予算

一般会計、特別会計、企業会計すべての会計を合わせた金額は、109億8,908万円です。

一般会計

80億6,100万円

前年度比 +21.5%

前年度比 +14億2,600万円

一般会計とは、飯豊町の行政サービスの基本的な分野、福祉や教育、道路整備などの収入と支出を管理する会計です。

特別会計

25億8,360万円

前年度比 ▲4.3%

前年度比 ▲1億1,648万円

特別会計とは、特定の目的のための会計で、特定の収入があり、一般会計とは区別して、収入と支出を管理する会計です。飯豊町では、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計など、11の特別会計があります。

企業会計

3億4,448万円

前年度比 +15.8%

前年度比 +4,690万円

企業会計は、民間企業と同じように事業収入によって運営する会計です。飯豊町では、水道事業会計があります。

予算編成の方針

令和5年度予算の歳出は、老朽化した公共施設の改修及び設備更新、修繕などは最小限に抑制したものの、令和4年8月3日大雨災害の災害復旧事業や、町民総合センター大規模改修事業に継続して取り組むことから、前年度比21.5%増の80億6,100万円となりました。歳入は、災害復旧事業に多額の費用が必要となることから、地方債や国県支出金、財政調整基金などの各種基金を活用します。

ロシアのウクライナ侵攻や原油価格高騰、異常気象による自然災害の頻発化など、我々を取り巻く情勢は日々目まぐるしく変化しています。将来的な不安がある中においても、今は、町民の皆さんが1日でも早く日常の生活を取り戻すことに行政投資を行わなければならないことから、令和5年度予算は、道路橋梁、農地及び林道等の災害復旧を最優先にした予算編成となりました。



令和5年度各会計予算書

予算の決め方と変え方

町長がまとめた予算案を町議会で審議し、議会の議決によって予算が成立します。町長が各課から出された案を自分の考えにそってまとめ、予算案として町議会に提出します。町民を代表する町議会は、提案された予算案を様々な面から審議した上で、議決します。

年度の途中における状況の変化などに対応するための予算を「補正予算」といいます。当初予算と同様に議会の議決を得て決まります。

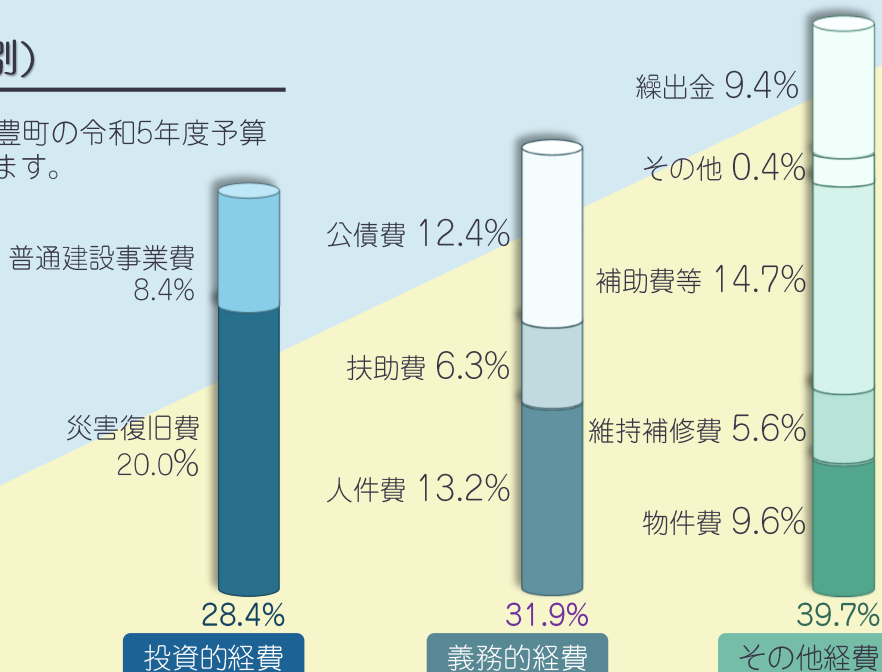


一般会計の歳出内訳(性質別)

歳出予算は性質別に分類でき、飯豊町の令和5年度予算80億6,100万円は、次のようになります。

一般会計予算総額に占める人件費、公債費など必ず支出しなければならない義務的経費の割合は31.9%です。

道路や公共施設の新増設の建設事業に必要とされる投資的な経費である普通建設事業費及び災害復旧費は、一般会計予算総額の28.4%となっています。



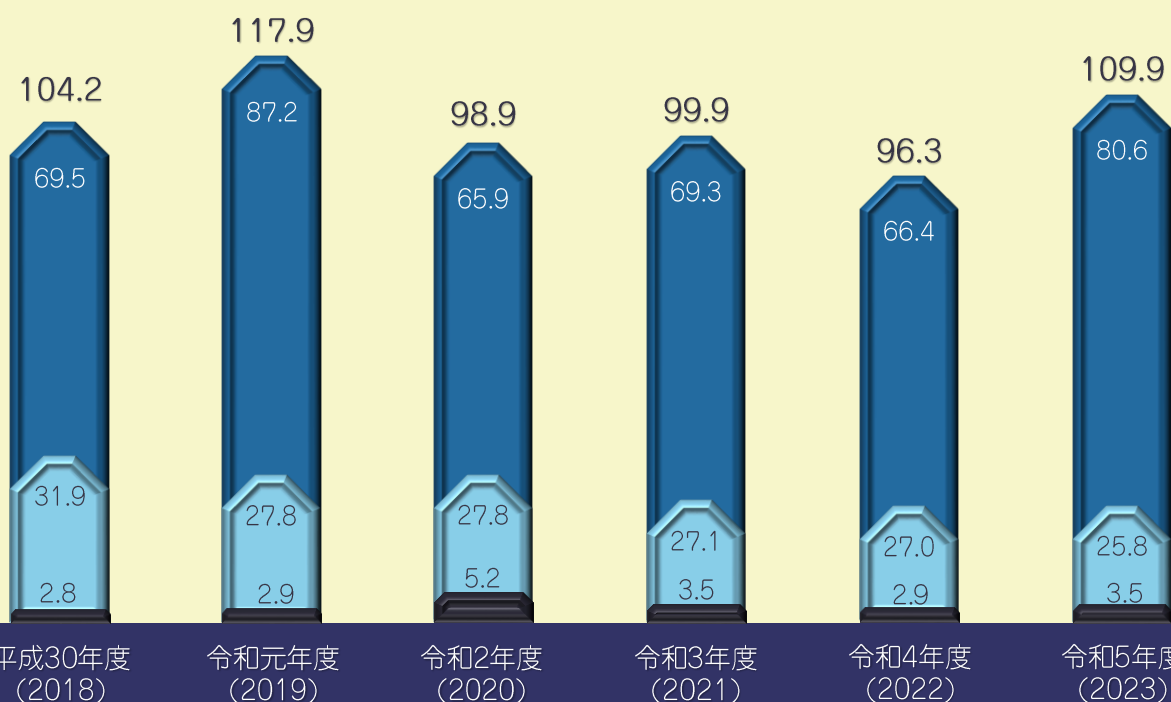
当初予算の推移

一般会計

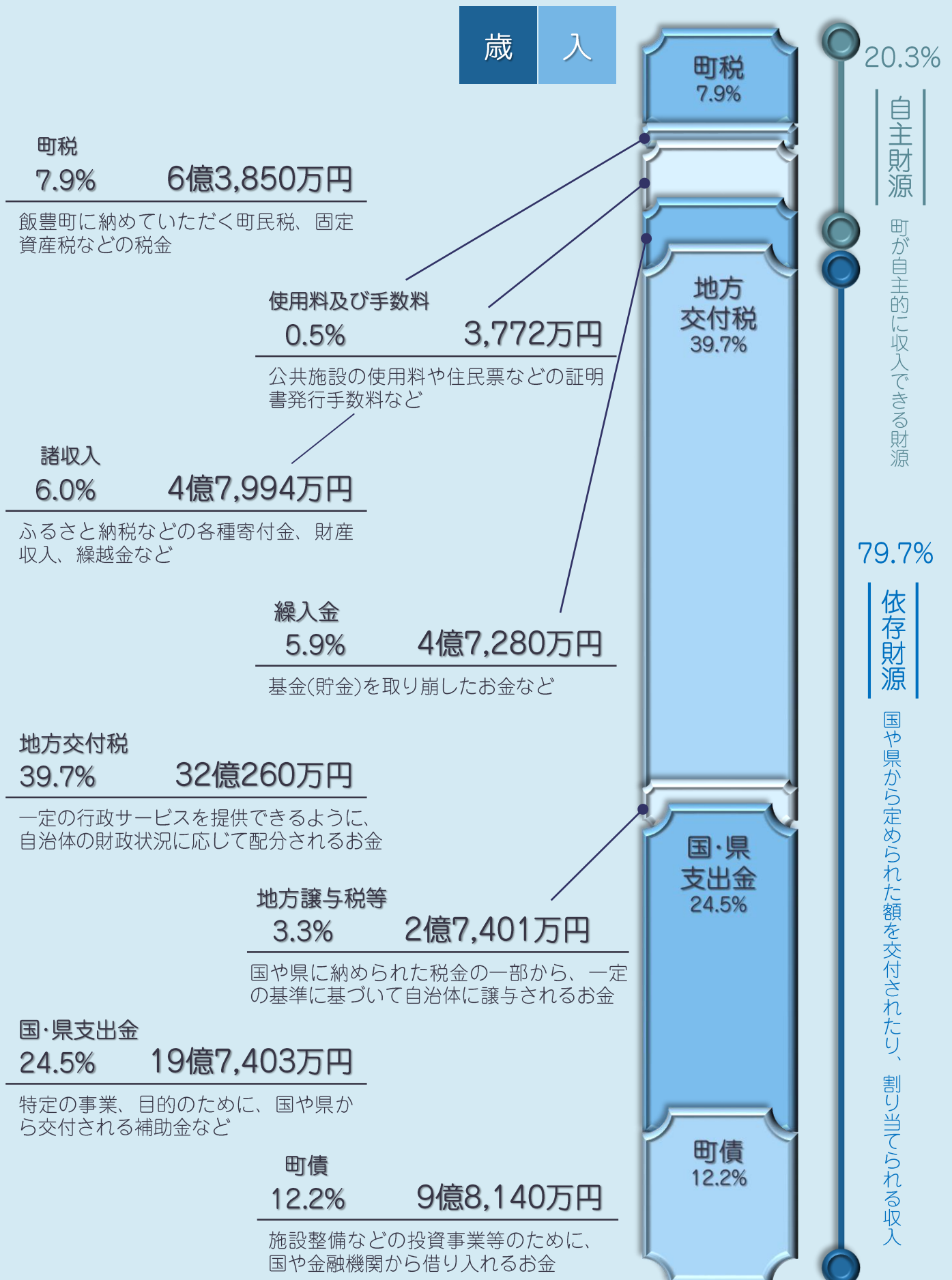
特別会計

企業会計

単位：億円



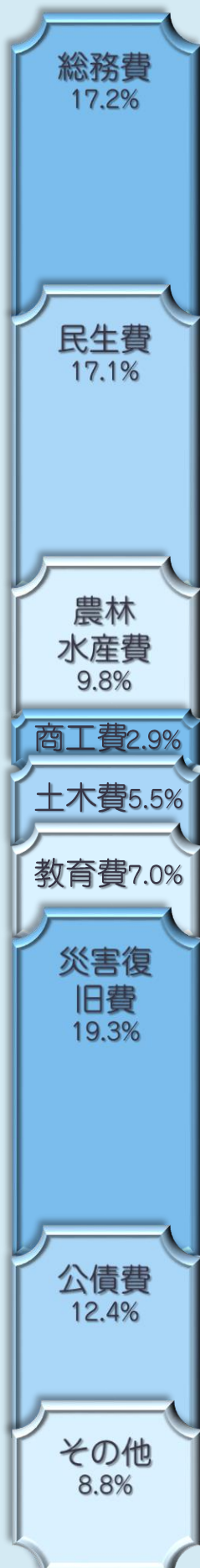
一般会計の歳入・歳出内訳



歳出を内容区分ごとに分類したものを、歳出の「目的別」の分類といい、民生、教育、土木など13の目的の歳出があります。

令和5年度は、町民総合センター大規模改修事業などの総務費が17.2%、子育て支援医療給付などの民生費が17.1%、令和4年8月3日大雨災害の災害復旧費が19.3%となっています。

歳 出



総務費

17.2% 13億8,733万円

役場庁舎の管理や町有財産の維持管理、税金の徴収、戸籍管理、選挙など



民生費

17.1% 13億7,956万円



障がい者や高齢者の福祉サービス、子育て支援、生活保護など

農林水産費

9.8% 7億8,626万円

農業、林業の振興など



商工費

2.9% 2億3,204万円



商工業・観光の振興、中小企業の支援、企業誘致など

土木費

5.5% 4億4,659万円

道路、河川の維持管理や整備、除排雪、公営住宅の管理など



教育費

7.0% 5億6,744万円



小中学校の環境整備、生涯学習、文化財やスポーツ振興など

災害復旧費

19.3% 15億5,244万円

道路橋梁、農地及び林道等の災害復旧費



公債費

12.4% 10億344万円



国や金融機関からの借入金の返済

その他

8.8% 7億590万円

議会運営、ごみ処理などの環境保全、消防費など



主要事業の概要

15億3,099万円

令和4年8月豪雨災害復旧事業



令和4年8月3日、本町では2度にわたって発生した線状降水帯が原因の豪雨により、これまで経験したことがない大災害が発生しました。特に道路や橋梁、農地、農業用施設の被害は甚大で、復旧には多額の費用を要します。

令和5年度は、道路や橋梁など社会基盤の早期復旧、被災された農家の皆さんの早期営農再開に向け、農地、農業用施設の復旧を最優先に取り組んでまいります。

また、頻発化、激甚化する災害に対応できるよう、防災減災事業や農業用施設の機能強化等について、関係機関と連携し検討するとともに、令和4年度に改訂した地域防災計画に基づき、災害に強いまちづくりを推進してまいります。



道路橋梁災害復旧事業

7億8,268万円

町道大平線 町道寺分線 町道工業団地線
町道舟越線 町道小山線 町道手ノ子高峰線
町道手ノ子沢線
など



林道災害復旧事業

1億8,410万円

林道東沢線 林道台沢線 林道朝倉線
など



町道坂ノ下線復旧（令和4年度）

農地農業用施設災害復旧事業

5億6,421万円

【農地】
萩生・高野地内 椿・椿第一地内
小白川・中郷地内
など

【農業用施設】
三本柳堰水路 小白川・長者原揚水機場
小白川水管橋
など





町民総合センター「あ〜す」

 人をはぐくむまち

5億1,080万円

町民総合センター「あ〜す」改修事業

平成3年度にオープンした町民総合センター「あ〜す」は、施設本体や電気、設備等の老朽化が顕著であることから、より快適な環境で長く使い続けるために大規模改修を行います。令和3年度に設計業務を完了し、令和4年度と令和5年度の2か年で改修工事を実施します。改修工事のため8月中旬頃まで「あ〜す」は休館となります。



 世代をつなぐまち

300万円

家庭保育支援事業

こども園等の幼児施設を利用せず、家庭で保育を行う3歳までのお子さんがある世帯を支援するため、お子さん1人につき1か月5,000円の家庭保育支援給付金を支給します。



 可能性をひらくまち

110万円

いいで農村未来研究所

令和4年度に開所したいいで農村未来研究所では、「手づくりのまち いいで」を継承し、地域の歴史や資源、文化の理解を通じて人材を育む取り組みを継続します。また、昨年の豪雨災害の調査研究や、地域づくりに対する支援を行う拠点として、地球環境課題にも応えられるSDGsに関連した取り組みなどを行います。

主要事業の概要

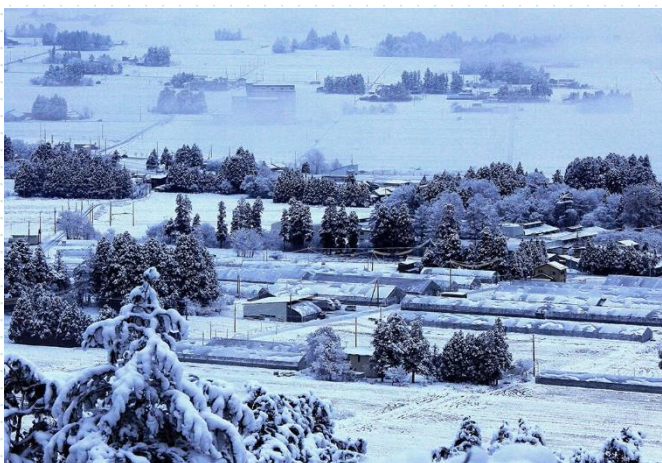


人をはぐくむまち

50万円

いいで子ども議会

町制施行65周年記念事業として、本町の将来を担う小中学生を対象に、子どもたちの夢のある自由で豊かな感性による、幅広い意見、要望などを町政に反映させることや、子どもたちが町の仕事や議会の仕組みを理解し、町をより身近なものとして感じてもらい、地域づくりへ積極的に参加する気持ちを育てることを目的とし、「いいで子ども議会」を開催します。



郷土をたがやすまち

3,410万円

消雪設備改修事業

特別豪雪地帯に指定されている飯豊町。道路の除雪は、機械による除雪のほか、消雪設備による融雪があります。本町の消雪道路の延長は約10km。消雪設備のほとんどが、昭和50年代に整備されており、井戸ポンプの揚水機能の低下やノズルの目詰まりなど老朽化による不具合が発生しています。安全・安心な住民生活を確保するため、消雪設備改修に取り組みます。



町制施行60周年記念事業「子ども議会」(平成30年)



世代をつなぐまち

650万円

豪雪地帯安全確保緊急対策事業

高齢者に対する除雪支援については、今後単身世帯や高齢者世帯の増加により、更なる要支援者の増加が懸念されます。

除排雪の担い手確保など雪による条件不利性がもたらす課題を克服し、豪雪地帯の魅力を生かした地域振興を推進するため、地域安全克雪方針の策定や、安全克雪事業を行います。

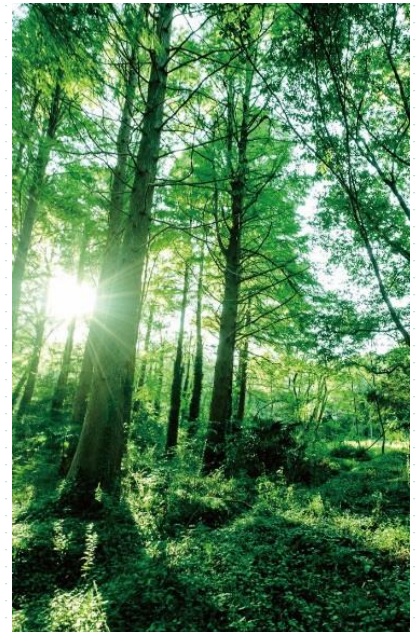
農地利用の最適化に関する地域計画策定

農業従事者の高齢化や担い手不足、そして引き受け手のない農地の増加が懸念される中、各地区で5年後、10年後に誰がどのように地域の農地を活用し経営していくかを検討し、地域計画及び目標地図の作成を行い、持続的な農業経営ができるよう支援していきます。



森づくり支援・森林整備

森林環境譲与税や山形県みどり環境税を活用し、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図ります。森林の保安全管理や計画性を持った資源の有効活用、荒廃した森林の整備、里山の下刈りなどにより、人と野生鳥獣の生活圏を分ける緩衝地帯を整備し、有害鳥獣や森林病虫害による農林産物被害の抑制を目指します。バイオマス産業都市として、木質バイオマス燃料の供給体制確立、公共施設等でのバイオマス燃料への転換などを進めていきます。



除排雪事業（道路、高齢者支援）

冬期間の道路交通を維持するため、道路の除雪や消雪を行い、安全・安心な生活を確保します。高齢者世帯等には、除雪ヘルパーの派遣等を通じて支援していきます。

主要事業の概要

縁をつむぐまち

2,623万円

地域おこし協力隊による地域力強化



地域おこし協力隊5名が、SDGs普及、ゼロカーボン推進、移住定住コンシェルジュ、アウトドア体験旅行の企画・実施、農業応援などの活動を行っています。地域力を向上させる若い力が町を盛り上げていきます。

縁をつむぐまち

1億円

ふるさと納税事業

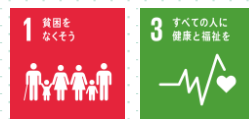


いいでめざみの里応援寄附金(ふるさと納税)により全国各地の多くの方から応援いただいています。いただいた寄附は町の貴重な財源になるだけでなく、本町を知ってもらい、この縁を大切にしていきます。

世代をつなぐまち

5,931万円

母子保健、子育て支援医療給付



県内でも早い段階から実施してきた年齢18歳までの医療費の無料化や、重度心身障がい児やひとり親家庭等の医療費助成、保育料の軽減、出産支援給付など、子育て世代等の経済的負担軽減を図っていきます。

縁をつむぐまち

705万円

アンテナショップIIDE運営事業



アンテナショップIIDE



平成26年11月に杉並区高円寺にオープンした「アンテナショップIIDE」。本町産の美味いつや姫で作る「おにぎり」販売を中心に、全国へPRしています。コロナ禍に対応し、町産食材を使用した弁当や総菜の販売が好調です。

ご紹介した事業以外にも、飯豊町ではたくさんの事業を展開しています。

 人をはぐくむまち

822万円

地域づくり推進事業



第5次飯豊町総合計画「地区別計画」の目標実現に向けた支援や、地区間で連携して行う事業(地区間連携枠)、新たに何かをやってみみたい団体等への支援(全町枠)など、地域づくり活動に対し支援していきます。

 縁をつむぐまち

531万円

老朽危険空き家対策

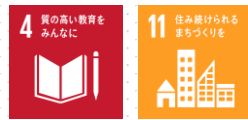


本町のみならず、全国的な課題となっている老朽危険空き家。平成30年度に策定した「飯豊町空き家等対策計画」に基づき、空き家の適正管理と活用を促し、老朽危険空き家の解体に向けた対策を進めます。

 世代をつなぐまち

711万円

学校・家庭・地域の連携協働推進事業



地域とともにある学校づくりを推進するため、地域住民等の参画を得ながら学校と地域が連携・協働できる活動を行います。その全体調整役として地域学校協働活動統括コーディネーターを配置します。

 人をはぐくむまち

150万円

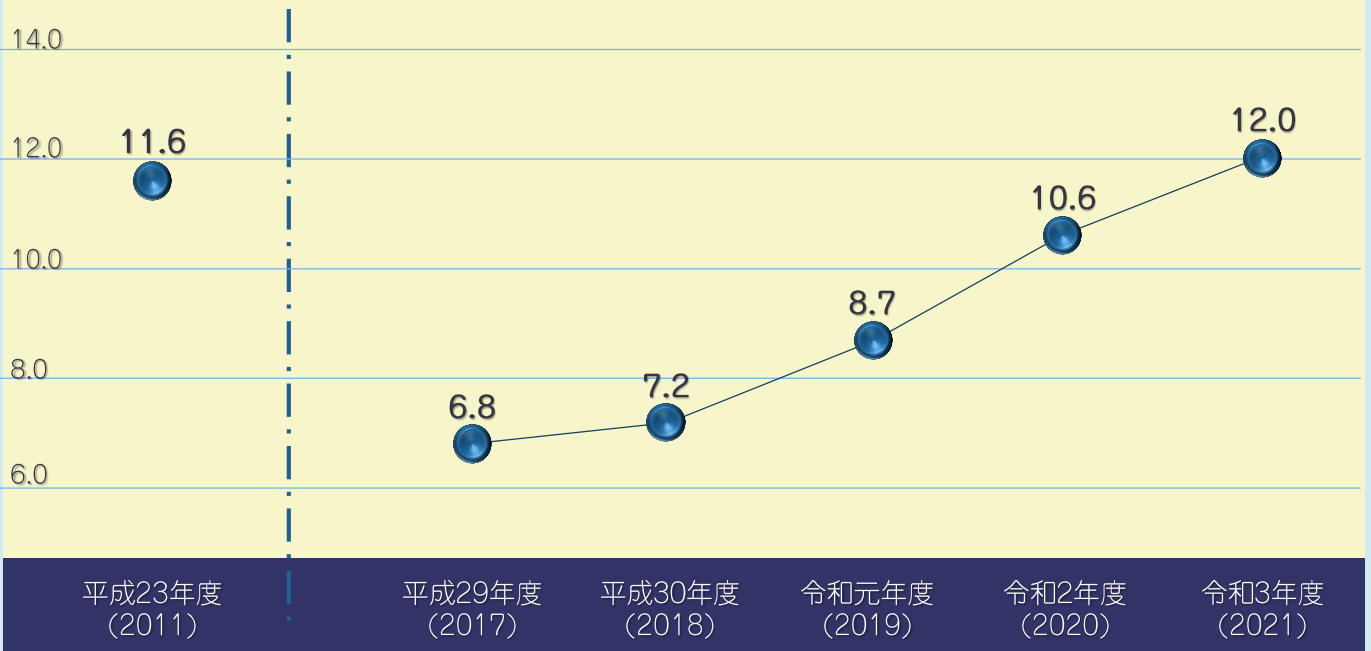
いいで未来カフェ



令和3年10月から始動した若者たちを中心としたワークショップ「いいで未来カフェ」を継続して実施し、提案されたプロジェクトの推進や、まちづくり人材の育成をしていきます。

実質公債費比率

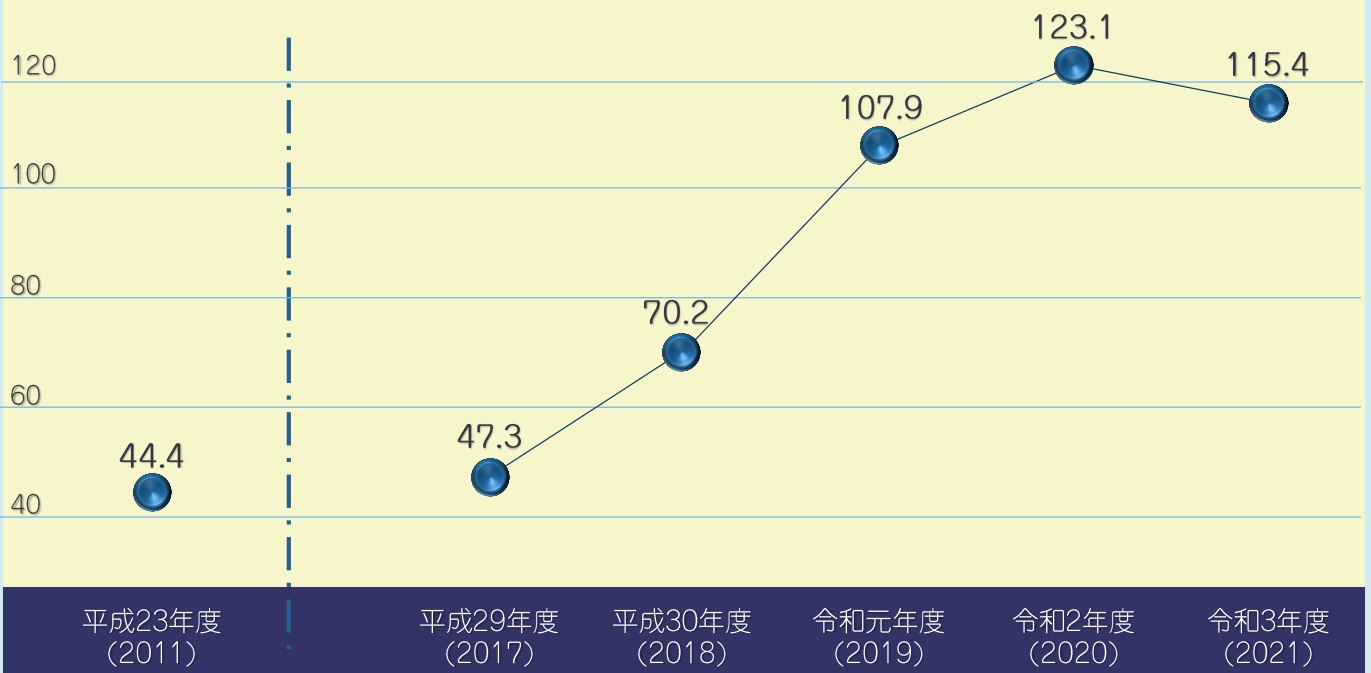
単位：％



実質公債費比率は、一般会計等が負担する地方債の元利償還金(町の借入金の返済金)などの標準財政規模に対する比率です。この指標が18%を超えると起債(借金)をする際に知事の許可が必要となり、25%を超えると一部の起債が制限されます。平成23年度は11.6%、令和3年度は12.0%です。

将来負担比率

単位：％



将来負担比率とは、地方債や職員の退職金など、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率です。この比率が高い場合、将来これらの負担額を実際に支払う必要があることから、今後の財政運営が圧迫されるなどの問題が生じる可能性が高くなります。平成23年度は44.4%、令和3年度は115.4%です。

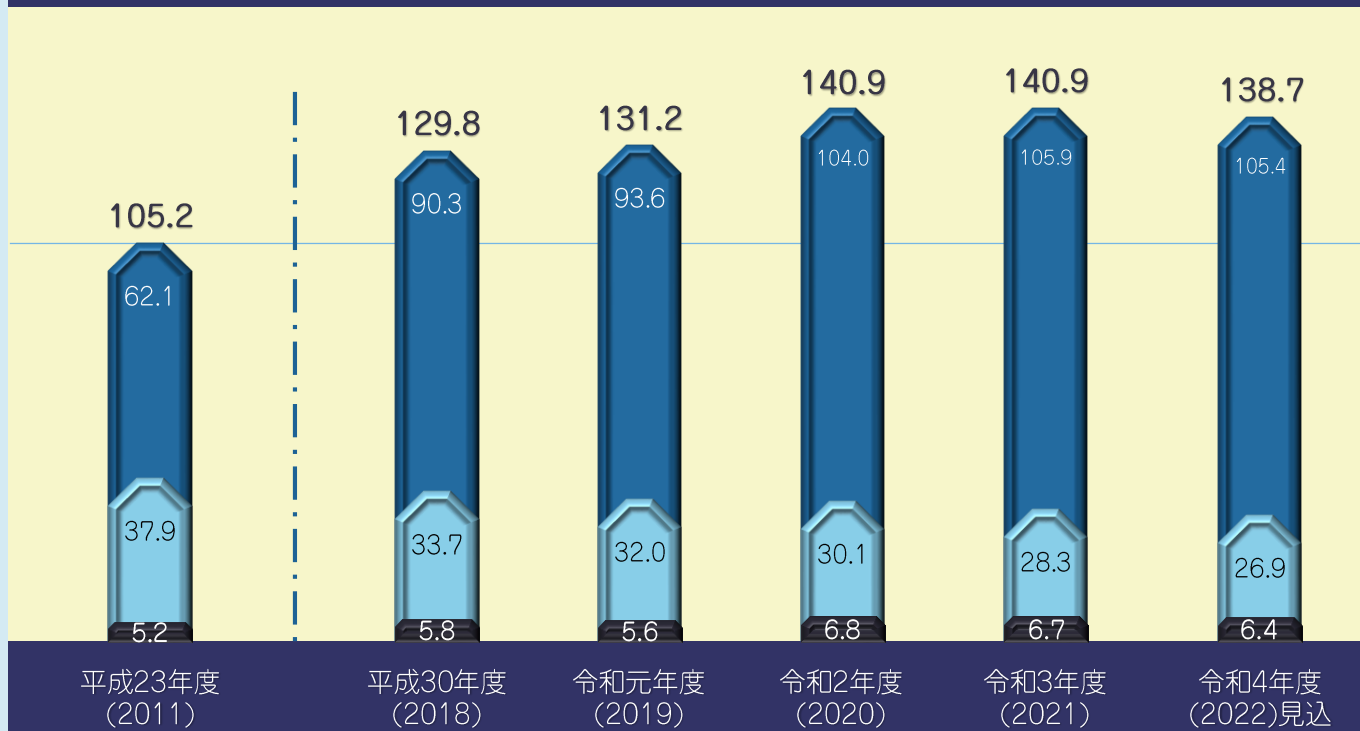
町債残高

一般会計

特別会計

企業会計

単位：億円



町債は、大きな事業をするときに、国や金融機関等から借りる資金です。道路や建物などは、たくさんの方が利用することから、その年の予算だけで賅うのではなく、将来の町民の方にも費用負担いただく「負担の公平化」も、町債を発行する理由の一つです。平成23年度は約105億2千万円。令和4年度は約138億7千万円になる見込みです。

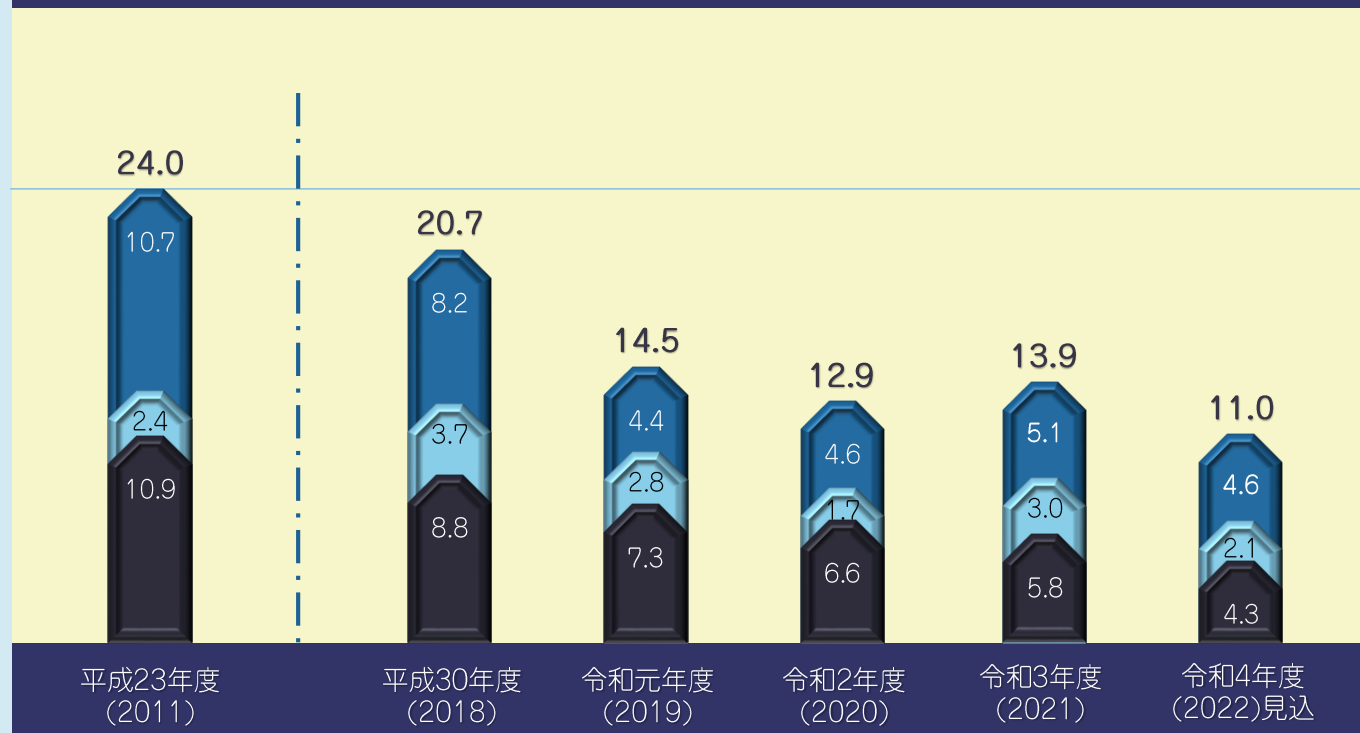
基金残高

財政調整基金

減債基金

その他基金

単位：億円



基金とは、特定目的のために財産を維持し、資金を積み立て、または定額の資金を運用するために設ける財産です。家庭で言えば貯金です。年度間の財源不足に備えるための「財政調整基金」、町債の償還(借金の返済)に必要な財源を確保し、財政の健全な運営を行うための「減債基金」などがあります。平成23年度は、約24億円。令和4年度は約11億円になる見込みです。

わかりやすい予算書
飯豊町 2023



〒999-0696
山形県西置賜郡飯豊町大字椿2888番地
TEL (0238)72-2111

飯豊町はNPO法人
「日本で最も美しい村」
連合に加盟しています



the most beautiful
villages in japan

飯豊町
山形県